

原遺跡第 27 次調査 現地説明会資料



平成 30 年 5 月 13 日（日）太宰府市教育委員会 文化財課

1. はじめに

今回行いました発掘調査は、東側隣地で平成 27 年度に実施した発掘調査により、山岳寺院「原山」の本堂に関係すると考えられる石垣や階段状の道（参道）が確認されたため、伝本堂跡の原山の中心施設としての重要性を考え、重要遺跡確認調査として実施したものです。

2. 山岳寺院「原山」とは

山岳寺院である原山は、天台宗の寺院で、「原山無量寺」や「原八坊」とも呼ばれます。『円満山四王寺縁起』によると、天台宗の円珍が唐（中国）に渡るため太宰府に滞在した際に、その弟子が四王院（寺）※の別院（別所）として天安 2（858）年に開いたと伝えられています。

また、12 世紀には臨済宗の開祖である栄西が原山の僧・尊賀と論争を交わした事や、時宗の開祖である一遍や室町幕府を開いた足利尊氏などが原山に滞在した記録が残っています。

原山の僧は、菅原道真の葬儀を行ったと伝えられ、雨乞いの祈祷も行っていました。廃寺後は、下山して天満宮安楽寺（現 太宰府天満宮）の社僧となりました。その後、原山の僧は神仏分離で、ほとんどが天満宮を離れますが、その末裔らによって建立された記念碑（図 1）や「原山本堂址」（図 2）などの石碑が現地に残されているほか、江戸時代に原山の伽藍の様子が描かれた「原山古図」（図 3）も残されています。

※四王院（寺）は、新羅による呪いに対抗して祈祷を行うため、宝亀 5（774）年に古代山城の大野城内に建立された寺院。大宰府管内の異変に対しても祈祷が行われていた。



図 1 原山記念碑



図 2 「原山本堂址」石碑

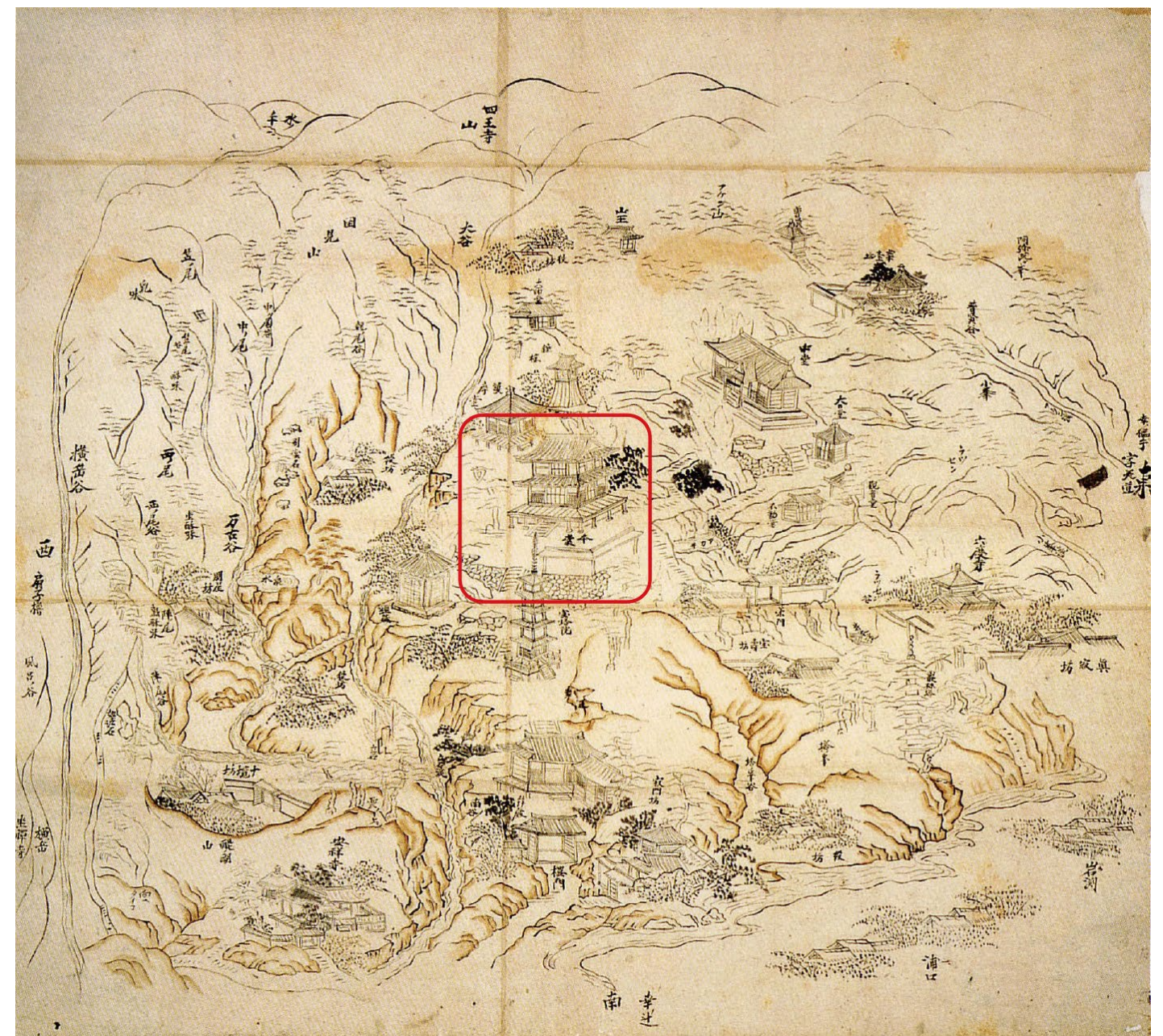


図 3 原山古図（個人蔵）※赤囲みが本堂

3. これまでの調査（図 9）

原遺跡では、今回の調査を含めこれまでに 28 地点で調査を行っています。原山の堂社に関する遺構は、第 8・11・12・18 次調査で確認しています。第 8 次調査は、伝中堂跡での調査で 12 世紀後半の建物跡 2 棟（2 間 × 1 間＝4.1m × 2.2m、3 間 × 2 間＝6m × 4m）を確認しています。第 11 次調査では 12 世紀代の礎石建物 1 棟（3 間 × 4 間＝6.4m × 7.3m）を確認しています。第 12 次調査では、基壇状の高まりと礎石建物（4 間 × 1 間分＝7.6m × 1.4m 以上）を確認しています。第 18 次調査では、11 世紀中頃に建てられ（3 間 × 3 間＝5.4m × 6.2m）、12 世紀代に建て替えられた礎石建物（4 間 × 4 間＝7.2m 四方）が確認されています。第 11 次調査の礎石建物と第 12 次調査の建物は原山古図（図 3）に見られる大日堂や観音堂、不動堂にあたる考えられます。

また、これまでの調査の状況から 13 世紀に大規模な造成が行われ、原山は 13 世紀代に隆盛期をむかえ、14 世紀代に衰退していったと考えられます。

4. 確認した遺構

今回の調査で確認した主な遺構は、3間×3間の建物跡（SB001）、5間×3間の礎石建物跡（SB005）、石組遺構（SX010）、石列（SX015）、階段状遺構（SX020）です。

- SB001（図8）：3間×3間の建物跡。確認した規模は、東西8m、南北12mです。北側に雨落ち溝も確認しました。確認した柱穴は、礎石を据えた跡と考えられます。13世紀代。
- SB005（図8）：東西5間×南北3間の礎石建物跡。確認した規模は東西14.5m、南北11mです。北側で雨落ち溝も確認しました。礎石は、4石が残っています。13世紀代。
- SX010（図4）：石組遺構。確認した規模は東西2.6m、南北2.2mで、一部の石材が抜き取られていると考えられ、堂社廃絶後に石塔（図5）を建てた跡と考えられます。13世紀から14世紀前半か。
- SX015（図6）：東西方向にのびる石列。5石を確認していますが、石列の更に西側に石材が抜き取られたと考えられる掘り込みが続いています。この掘り込みまで含めると東西11.5m以上となります。確認した建物跡2棟に先行する石垣（造成）の痕跡と考えられます。13世紀以前か。
- SX020（図7）：南北方向の階段状遺構。確認した規模は南北3mの3段で、第22次調査で確認した道（参道）から敷地内に入る入口と考えられます。13世紀代か。



図4 SX010 石組遺構（北から）



図5 原山伝本堂跡出土石塔



図6 SX015 石列（北東から）



図7 SX020 階段状遺構（東から）



図8 原 22・27 次全景（上が北）※青色破線は SB005 雨落ち溝想定線

5. 調査成果

今回の調査で確認した2棟の建物跡は、これまでの調査で確認された建物跡よりも規模が大きく「本堂」の伝承と一致することからも、原山の中心施設である本堂と考えられます。また、原遺跡第22次調査で確認した道（参道）から伝本堂跡内へと入るための階段状遺構も確認し、道（参道）と建物跡が一連の繋がりを持つ施設であることを確認しました。

これらの遺構は、大宰府の宗教史や地域史を考える上で重要な遺跡と言えます。



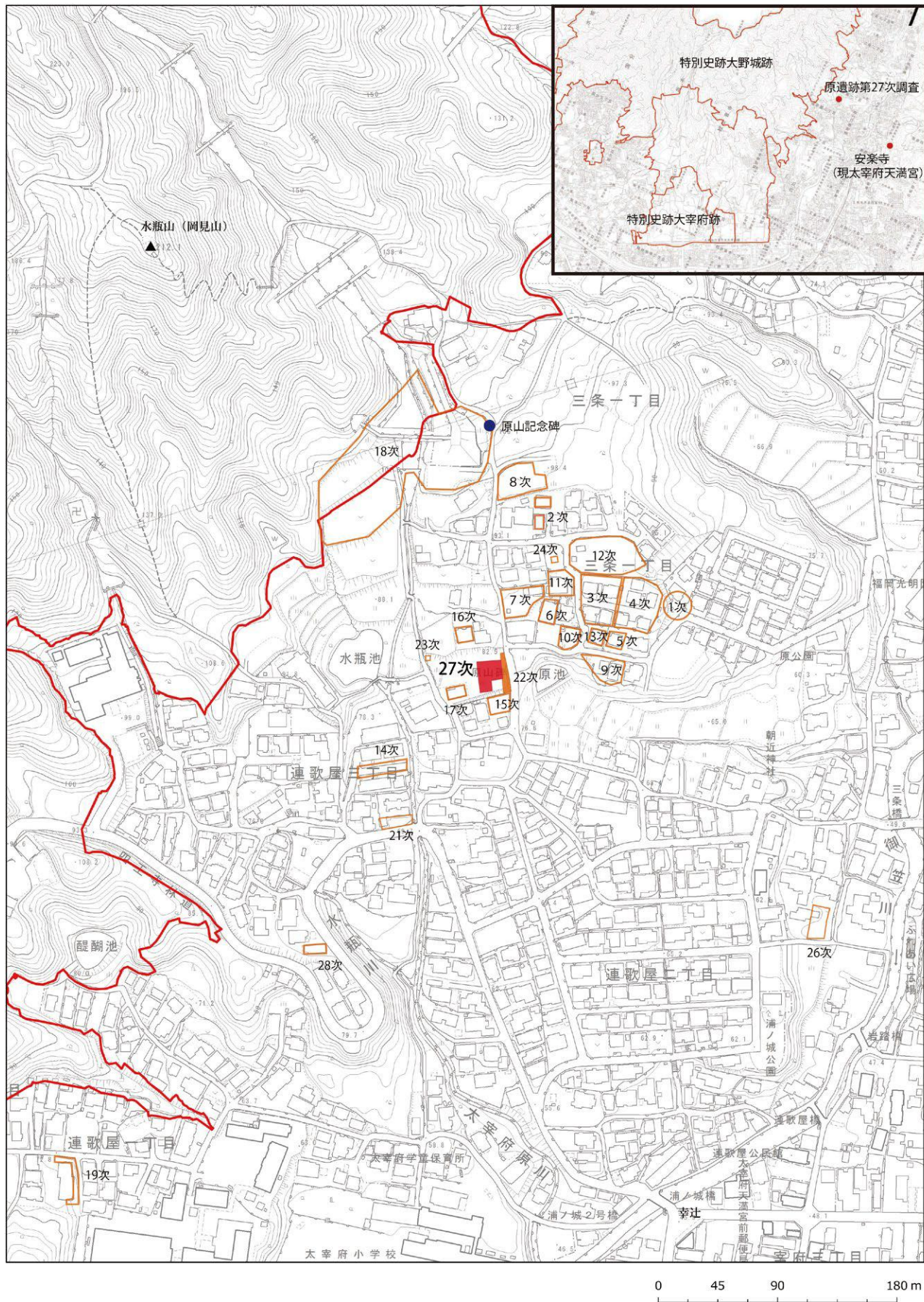


図9 原遺跡調査地点図



図10 原山古図書き起こし図